



(Tan Tetsu Kou)



北の産業革命

# 炭鉄港



Otaru



Sorachi



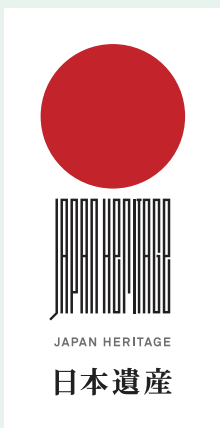
Muroran



今こそ

本物を見る・知る・体験する

# 教育旅行 のすすめ







## 北の産業革命「炭鉄港」とは

広大な大地、豊かな自然。北海道の産業といえば農業、漁業、林業を思い浮かべることでしょう。明治初期に蝦夷地改め、新たに命名された「北海道」は昭和の高度成長期までの100年の間に人口が100倍となる急成長を遂げました。

実は、この成長の中核となった産業こそ石炭というエネルギー資源。空知の「炭鉱」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた歴史が北の産業革命「炭鉄港」の物語です。

約100km圏内に位置し、近代北海道を築く基となったこの三都(空知、室蘭、小樽)を原動力として、大きく発展を遂げた北海道。炭鉱遺産や工場景観、港湾や鉄道施設などが今もなお、歴史をたどる文化財や遺産として存在し、訪れる人に北海道のまだ見ぬ魅力を語っています。

## 炭鉄港が教育旅行のテーマにぴったりの3つの理由

- その1 「本物」が体験できます**  
当時使われていた施設や道具が比較的良い状態で残っていたり、現役で稼働していた頃の炭鉱やまちの様子を知る人の話を聞いたり、「本物」を見たり、聞いたりすることができます。
- その2 幅広い学習テーマに対応可能です**  
炭鉄港には、様々なジャンル、非常に多くの構成文化財、施設があるため、北海道の歴史・地理・食文化など幅広い分野の学習テーマに応じたプランを組み立てることができます。
- その3 過去～現在～未来について学ぶことができます**  
旧産炭地域では、石炭産業の隆盛と閉山後の急激な衰退を経験しました。これは今後、全国各地で起こりうるいわば「すでに起きた未来」といえます。こうした現状に炭鉄港の各地域では炭鉱遺産を活かした新たなまちづくりの模索を続けています。炭鉄港の地域を考えることは自分の住むまちの未来を考えることにもつながるのです。

## 炭鉄港とSDGs

17の目標で構成されるSDGsのうち日本遺産「炭鉄港」では、次の3つの目標を主に学ぶことができます。


- 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 11: 住み続けられるまちづくりを
- 13: 気候変動に具体的な対策を

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



まずはご相談ください!

北海道空知総合振興局 ☎0126-20-0034

**目次**  

日本遺産「炭鉄港」と教育旅行	2
岩見沢市	4
夕張市	5
三笠市	6
美幌市	8
赤平市	10
小樽市	12
室蘭市	13
モデルコースと「食と宿」情報	14
炭鉄港エリアMAP	16



# 鉄道の拠点として発展したまちで「炭鉄港」の全体像をイメージする 岩見沢市 炭鉄港

アクセス：札幌市内から約35分(道央自動車道経由)、新千歳空港から約60分(道央自動車道経由)

**概要** 「そらち炭鉱(ヤマ)の記憶マネジメントセンター」のスタッフから、炭鉄港全体の歴史と成り立ちを講座形式で学ぶとともに、「岩見沢レールセンター(旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場)」の外観見学や岩見沢駅周辺を歩いて、鉄道のまちをフィールドワークします。

**学習のテーマとねらい** 炭鉄港の産業群が果たした北海道の近代化と日本の経済発展における役割を大テーマに、日本各地とのつながりや、石炭を小樽や室蘭に輸送した鉄道網が北海道の内陸部の開拓と地域づくりに果たした役割を学びます。

**事前・事後学習**

- 北海道の開拓と炭鉄港のストーリーのつながりを調べよう
- 空知の石炭産出量の推移と国内・海外への輸送について調べよう

**お問合せ先** NPO法人そらち炭<sup>ヤマ</sup>の記憶推進事業団  
Tel.0126-24-9901

**岩見沢市の「炭鉄港」ストーリー** 明治15年に官営幌内鉄道の幌内～手宮間が全線開通し、以降、岩見沢～歌志内間、岩見沢～輪西(室蘭)間の鉄道が開通したことで陸上交通の要衝となります。明治38年に開鉱した万字炭鉱からの積出のために大正3年に万字線が全線開業するなど、周辺地域の炭鉱・鉄道と共に発展し、後には汽車を待つ間を喫茶店等で過ごす「汽車待ち文化」も定着しました。現在も鉄道の要衝であり、岩見沢では炭鉱・鉄道の歴史を地域の「たから」と位置付けています。

## そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

炭鉄港とは何かを知るにはまずここへ。炭鉄港地域情報のインフォメーションセンターであり、空知の炭鉱関連の有形・無形の資源(炭鉱の記憶)を活用し、地域内外の交流活動を促進している。カフェコーナーや炭鉄港グッズ、炭鉄港めし(スイーツ)の販売もある。1909(明治42)年建築の石蔵を併設。  
※教育旅行の受け入れも多数あり、近隣のホールなどで炭鉄港全体の講座、その後は岩見沢駅周辺でスタッフがガイドしながら歩いたり、バスに同乗してほかの市町の炭鉄港についてのガイドをすることも可能です。時間や要望などを相談しながら空知の炭鉄港ストーリーの行程を組むことができます。

岩見沢のここから知る・学ぶ



炭鉄港講座



岩見沢駅



岩見沢レールセンター

## 岩見沢市内の行程

### そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

- 所要時間：120分～180分(時間・内容は応相談)
- 料金：要問合せ
- 休館：月・火曜日(祝日は翌平日)
- 内容例：\*岩見沢駅近隣のホールなどを会場にした炭鉄港の歴史、成り立ち、ストーリーの講座  
\*岩見沢駅周辺のフィールドワーク  
・旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場(岩見沢レールセンター)の外観見学  
・岩見沢駅、駅前商店街の散策、見学

### 朝日駅舎、万字線鉄道公園

- 所要時間：約15分

《 っと! 岩見沢 》

## 岩見沢郷土科学館

岩見沢市の自然や歴史に関する資料を多数収蔵。鉱業のコーナーでは、炭鉱施設で使われていた機器や高さ1m以上の石炭岩をみるすることができます。

栗山町へ



### 小林酒造

- 所要時間：約60分(記念館と蔵見学)※要予約



# 炭鉱のまちの栄枯盛衰から自分のまちの未来を考える 夕張市 炭鉄港

アクセス：札幌市内から約90分(一般道経由)、新千歳空港から約60分(一般道経由)

**概要** 夕張は「函館が100万ドルの夜景なら、夕張は100万トンの夜景」と謳う(北炭社内誌)ほどの栄華を極めました。平成19年に財政再建団体に指定されました。石炭博物館で炭鉱産業や採掘を知り、まちと炭鉱産業のつながりを学びます。

**学習のテーマとねらい** 昭和30年代に11万人以上の人口を擁した夕張ですが、現在は1万人を割り込んでいます。「炭鉱から観光へ」とした政策も一定の役割を終えました。人口減少・高齢化は日本全体の問題となり、自分たちのまちの未来を夕張から考えます。

**事前・事後学習**

- 夕張の人口推移と産業の変遷を調べよう
- 自分のまちの課題と未来へ向けた対策を考えよう

**お問合せ先** 夕張市石炭博物館  
Tel.0123-52-5500

**夕張市の「炭鉄港」ストーリー** 明治23年に北炭が夕張炭鉱を開鉱し、以降は北炭、三菱を中心に関連産業も発達しましたが、昭和40年代のエネルギー政策の転換で炭鉱は次々と閉山、平成2年の三菱石炭炭業南大夕張炭鉱の閉山で「炭鉱のまち夕張」の歴史は幕を閉じました。その後は「炭鉱から観光へ」と舵を切り、「石炭の歴史村」、「石炭博物館」などが開業しました。平成19年に財政再建団体となりましたが、炭鉱遺産は交流人口の創出や郷土の歴史を伝える地域資源として今も活用されています。



夕張のここから知る・学ぶ



## 夕張市石炭博物館

夕張の歴史、炭鉱産業とは、炭鉱の技術の推移や機械・器具、炭鉱街の暮らしと文化、当時の生活用具など、炭鉱と石炭に関わること、炭都・夕張の変遷などを広く学ぶことができます。また、本物の坑道を用いた「模擬坑道」も地下に設けられており、実際の石炭層に触れることもできます。(模擬坑道は2024年度現在、見学はできません。2025年度以降は博物館へお問い合わせください)

## 石炭の大露頭



明治21年、道庁の技師坂市太郎が志幌加別川の上流で石炭の大露頭を発見したことから「炭鉱のまち夕張」の歴史が始まりました。約5000万年前の地層で、国内ではほかに例のない大規模のもの。※博物館開館時に公開

夕張市へ

## 夕張市内の行程

### 夕張市石炭博物館

- 所要時間：約90分
- 料金：20名以上の団体=中学生以上660円 ※2025年以降の料金は要問合せ
- 休館日：火曜日(4月下旬～11月上旬開館・要問合せ)

### 石炭の大露頭

- 所要時間：15分



◆ アクセス：札幌市内から道央自動車道経由で約40分、新千歳空港から道央自動車道経由で約70分

**概要** 三笠市立博物館でまちの歴史、石炭産業について学び、野外博物館で石炭層と炭鉱遺産にふれ、ジオ(大地)と産業のつながりを体感します。三笠鉄道記念館では、石炭を積出港の小樽へ運ぶとともに、北海道の内陸開拓にも大きな役割を果たした幌内鉄道の歴史を学びます。

**学習のテーマとねらい** 私たちはジオの上で生活しています。炭鉱は石炭がそこに埋蔵しているから成り立つ産業です。「1億年の時間旅行」をテーマにする三笠ジオパークでジオと人間の生活の関わりを知り、自分のまちのジオと生活・産業を考えるきっかけとします。

**事前・事後学習**

- 日本のジオパークとその特徴を調べてみよう
- 三笠の石炭の発見と開拓について調べてみよう

**お問合せ先** 三笠ジオパーク推進協議会  
TEL 01267-2-3997

## 三笠市の「炭鉄港」ストーリー

三笠市は北海道の近代炭鉱と鉄道発祥の地です。明治元年に幌内で石炭が発見され、明治12年に官営の炭鉱として幌内炭鉱が設置されました。明治15年、北海道開拓と炭鉱での労働力確保を目的に空知集治監(現在の刑務所)が市来知(いちきしり)に設置され、同年には幌内炭鉱から掘り出された石炭を輸送するための鉄道が幌内と手宮(小樽)間に北海道で最初に開通します。その後、幾春別炭鉱、奔別炭鉱など多くの炭鉱が開鉱していきます。昭和になると機械化が進み、大規模に石炭が採掘されるようになりました。それに伴って三笠の人口は徐々に増加し、昭和34年には6万2781人に。しかし、エネルギー政策の転換や炭鉱での事故も重なり、幾春別炭鉱は昭和32年、奔別炭鉱は昭和46年、幌内炭鉱は平成元年に閉山しました。残された炭鉱遺産を活用するため昭和62年に三笠鉄道記念館が、平成2年にはクロフォード公園もできました。また、炭鉱遺産を、大地の遺産である石炭によるストーリーでつなげ活用する目的で、平成25年には三笠ジオパークが認定されました。ジオパークを軸として炭鉱遺産を活用し、炭鉄港の歴史を踏まえたツアーなどを実施し、まちづくりを進めています。



## 《 っと! 三笠 》

### 住友奔別炭鉱立坑櫓

明治33年に奈良炭鉱として開鉱し、昭和5年に住友炭鉱に。住友奔別炭鉱立坑櫓はドイツの技術を導入して昭和35年に操業しましたが、わずか12年でその役割を終えました。当時は東洋一の立坑と呼ばれ、今もその威容を誇っています。  
※見学は外観のみ(解説付き見学可能)



### 三笠鉄道記念館

三笠鉄道記念館は北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため昭和62年にオープン。蒸気機関車S-304号や過去に道内で活躍した車両を展示しています。館内には、明治時代の貴重な資料が展示され、2階では幌内線や北海道の鉄道の歩みを映像で学ぶことができます。



### 三笠市立博物館&野外博物館

三笠市立博物館では、アンモナイトから地域の歴史や産業まで幅広く知ることができます。アンモナイトは見るだけでなく触って楽しむこともできます。博物館から5分ほど歩くと野外博物館。ここでは地面に露出した石炭層や炭鉱遺産を見学できます。片道1.2kmの散策コースになっており、15の見どころ・見学スポットがあり、それぞれ解説看板が設けられています。右の写真はその見どころの一部で、上から「旧幾春別炭鉱錦立櫓坑」「地表に露出した石炭層」「垂直な地層の観察できる場所」「ひとまたぎ5千万年(ひとまたぎ覆道)」です。

### 三笠市内の行程

- 三笠市立博物館**
  - 所要時間：約60分
  - 料金：20名以上の団体=小・中学生120円、高校生以上360円
  - 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
- ⇓
- 野外博物館**
  - 所要時間：約70分
  - 料金：要問合せ(有料ガイドによる解説)
- ⇓
- 住友奔別炭鉱立坑櫓・周辺施設**
  - 所要時間：見学のみ約10分(解説付き約30分)
  - 料金：要問合せ(有料ガイドによる解説)
- ⇓
- 唐松駅舎**※車窓より
- ⇓
- 三笠鉄道記念館**
  - 所要時間：約40分
  - 料金：20名以上の団体=小・中学生160円、高校生以上430円
  - 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
  - ※三笠市立博物館・鉄道記念館・文化芸術振興促進施設「ciel」との共通入館券あり
  - ※20名以上の団体=小・中学生300円、高校生以上650円



アクセス：札幌市内から約60分(道央自動車道経由)、新千歳空港から約80分(道央自動車道経由)、同90分(国道経由、三笠・栗山線経由)

### 概要

炭鉱の住宅街にあった小学校は美唄市出身の世界的彫刻家・安田侃(やすだ・かん)氏の作品を展示する空間となっています。たくさんの子どもの声が響いた空間に広がるアートの広場から、産業と暮らしの変遷を体感します。

### 学習のテーマとねらい

炭鉱という最大の産業が衰退したまちが、それらの遺構を「アートの空間」として活用し、従来とは違う新しい人の流れを生み出す発想の転換、そして多くの人々が働き、暮らしたまちと産業の盛衰を学びます。

### 事前・事後学習

- 日本のエネルギーの主役の移り変わりについて調べてみよう
- まちの産業の盛衰と産業遺産の活用を各地の事例から調べてみよう

### お問合せ先

一般社団法人 ステイびばい  
TEL050-1741-4683

### 美唄市の「炭鉄港」ストーリー

開拓使の鉱山担当になった榎本武揚は「石炭山取調書」を明治6年に提出、これをきっかけに開拓使は幌内炭山の開発に動き出しました。明治7年、アメリカ人の地質学者ライマンがピバイ煤田を調査し「日本蝦夷地質要略之図」で紹介。これにより明治20年代以降、煤田鉱区の探索が始まります。明治24年、北海道炭鉄鉄道は岩見沢―歌志内間まで鉄道を延伸します。美唄(沼貝)村では明治・大正にかけ小規模の開鉱が行われ、大正・昭和には三菱や三井といった大手財閥による大規模採掘が始まりました。石炭産業の発展とともに人口も増加し、炭鉱では石炭を大量輸送するために三菱美唄鉄道、三菱茶志内鉄道、三井では国鉄南美唄支線が敷設されました。しかし石炭産業の斜陽化によって昭和38年に三井美唄炭鉱が閉山、昭和47年に三菱美唄炭鉱が閉山し、美唄鉄道も廃線に。翌48年に三美炭鉱、北菱我路炭鉱が閉山しました。平成2年、三菱美唄炭鉱竪坑櫓などが市に寄贈され、炭鉱メモリアル森林公園となり、その威容を示しています。平成4年に東美唄地区の旧栄小学校の敷地に彫刻家・安田侃の作品を収めた芸術文化交流施設「アルテピアッツァ美唄」がオープンし、現在は、美術館になっています。

## 《 っと! 美唄 》



### 美唄鉄道東明駅舎

昭和23年に開業した美唄鉄道の駅舎です。戦後に三井・三菱両炭鉱の住宅地となりました。駅舎・プラットフォーム・機関車が残っています。



### 4110形式十輪連結タンク機関車2号

大正8年に製造されたE型蒸気機関車です。美唄鉄道が三菱造船神戸造船所に発注したもので、昭和47年の美唄鉄道廃止まで使用され、美唄市へ寄贈されました。



美唄のここから知る・学ぶ

### 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 (旧栄小学校)

彫刻家・安田侃氏の作品を展示する空間、その芝生に寝転がって見る空と彫刻。その時間は他で味わえないものです。同美術館のホームページで「今を生きるすべての人が、無心に、自由に、思い思いの時間を過ごすための芸術広場です」とされている自然と彫刻が融合する空間を楽しんでください。

### 美唄市郷土史料館

北海道開拓を担った屯田兵による美唄への入植や「炭都」として栄えた美唄の歴史、自然を学べる施設です。日本遺産「炭鉄港」の構成文化財「人民裁判の絵」が展示されています。

月形町へ



### 月形樺戸博物館

明治14年、全国で3番目・北海道では初の集治監として設置され、政治犯や重罪人が収監されました。囚人たちはやがて、内陸部に道路をつくるという困難な作業を遂行しました。こうした「囚人道路」は北海道を開拓する基盤となりました。「樺戸集治監」の歴史を資料やジオラマ等で展示しています。

### 美唄市内の行程

#### 美唄市郷土史料館

- 所要時間：約60分
- 料 金：10名以上の団体=小・中学生40円、高校生以上230円
- 休 館：月曜日

#### 美唄鉄道東明駅舎 ※車窓より

#### 安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄

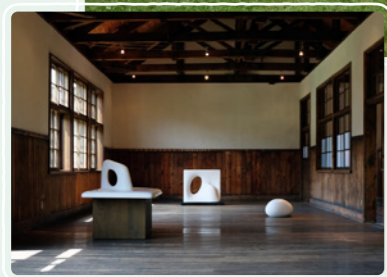
- 所要時間：約60分  
施設説明(要予約)…5分  
ガイドツアー(要予約)…30分  
自由見学…25分
- 料 金：ガイドツアー(300円/生徒1名、150円/付添1名)
- 休 館：火曜日、祝日の翌日(日曜は除く)

#### 炭鉱メモリアル森林公園

- 所要時間：約15分

#### 月形樺戸博物館

- アクセス：美唄から車で25分程度
- 所要時間：約60分
- 料 金：10名以上の団体=小・中学生50円、高校・大学生100円
- 開 館：3月20日～11月30日 ※期間内は無休



### 炭鉱メモリアル森林公園

旧三菱美唄炭鉱の竪坑地区に設けられた公園です。大正12年に深さ約170mの竪坑が2本開削され、その上に約20mの竪坑櫓が建設されました。戦前から戦後にかけ、年間100万トン超の出炭量を誇る大炭鉱でしたが、昭和47年に閉山。経済産業省が指定する近代化産業遺産で、日本唯一となった一対の竪坑櫓のほか、原炭ポケットや閉閉所なども残され、土地の高低差とあわせ、炭鉱採業時の様子を現在に伝える、貴重な場所となっています。また、この公園には安田侃氏の3点の彫刻が設置されています。





アクセス：札幌市内から約90分（道央自動車→国道38号）、新千歳空港から約120分（道央自動車→国道38号）

## 概要

東洋一の立坑と言われた旧住友赤平炭鉱立坑櫓に隣接する「赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設」で炭鉱の歴史や立坑の仕組みについて解説を受けた後、立坑櫓のヤード内部をガイド付きで見学します。777段の階段を上って岩石の捨て場であるズリ山登山もできます。

## 学習のテーマとねらい

炭鉱遺産と市内の工場施設の見学を組み合わせることで、炭鉱の技術を活かして石炭からものづくりのまちへ転換したリアルな過程を学べます。また、立坑櫓やズリ山などから石炭産業のスケールを実感することができます。

## 事前・事後学習

- 産業遺産の活用事例を調べてみよう
- まちに人が暮らし続けるために必要な要件を考えてみよう

## お問合せ先

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設  
TEL0125-74-6505

## 赤平市の「炭鉄港」ストーリー

赤平の石炭の歴史は安政4年、北海道の名付け親として知られる松浦武四郎が空知川の沿岸で石炭を発見したことに始まります。しばらくは輸送手段がなかったため開発が進みませんでした。大正2年に滝川一宮富良野間に鉄道が開通したことで状況は一変し、大正7年に赤平で最初の炭鉱として茂尻炭鉱が開坑、昭和12年に豊里炭鉱、昭和13年に赤間炭鉱と住友赤平炭鉱が開坑し、中小炭鉱も合わせると累計で77もの炭鉱が赤平にはありました。多くの炭鉱が稼働する中、人口は昭和35年にピークの6万人近くを数え、赤平駅の1年間の貨物取扱量が大阪・梅田駅を抜いて日本一にもなりました。しかし、昭和30年代後半から石炭産業の衰退を余儀なくされ、平成6年には最後の一山が閉山し、赤平の石炭の歴史に幕を下ろしました。その後赤平は鉱業都市から工業都市へと産業構造の転換を図り、炭鉱で培った技術などを活かしたものづくり企業の誘致を積極的に行ってきました。平成15年に第6回国際鉱山ヒストリー会議が行われたことをきっかけに炭鉱遺産保存への機運が高まります。平成28年に旧住友赤平炭鉱の施設を住友マテリアルズから赤平市が無償譲渡を受け、平成30年に赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設がオープンしました。

## （ っと! 赤平 ）



### 市内の工場

市内には工場見学が可能な施設がいくつかあります。炭鉱で培われた技術を活かし、鉱業から工業のまちへと転換した赤平のいまを垣間見ることができます。

## 赤平市内の行程

### 旧住友赤平炭鉱立坑櫓と赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設

- 所要時間：約120分（ガイド付き見学90分、施設内自由見学30分）
- 料 金：立坑櫓のガイド付き見学（要予約）  
市外の学校団体（中高生） 一人400円  
ガイダンス施設は入館無料
- 休 館：施設へ問合せ

### 北炭赤間炭鉱ズリ山

- 所要時間：約15分（見学のみ）

### 芦別市

#### 星の降る里百年記念館

- アクセス：赤平から車で20分程度
- 所要時間：約60分
- 料 金：高校生100円、中学生以下無料、20名以上の団体は割引あり
- 休 館：月曜日、火曜日（7、8月は月曜日）

### 歌志内市

#### 郷土館 ゆめつむぎ

- アクセス：赤平から車で15分程度
- 所要時間：約60分
- 料 金：無料
- 休 館：月曜日（祝日の場合は開館）

赤平のここから知る・学ぶ



## 旧住友赤平炭鉱立坑櫓と赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設

立坑櫓は高さ43.8m。昭和38年に完成し、地下550m（海拔）まで鉱員を4段（1段18人×4段=72人）のエレベーターで一気に送ることができました。こうした技術は当時「東洋一」といわれ、生産量も立坑の完成後は倍増しました。その構造や機械、電気系統などが閉山時のまま残されています。

立坑の横には赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設が設置されており、約200点の資料から炭鉱遺産を紹介しています。また、実際に炭鉱で働いていた人や施設職員のガイド付きで立坑内部を見学するための拠点施設ともなっています。

## 北炭赤間炭鉱ズリ山

駅裏にある北炭赤間炭鉱坑内から出る石を積み上げたズリ山の標高は197.65mにもなります。ここには777段の階段があり、その段数（直線部分）はズリ山階段としては日本一。頂上の展望広場からは、赤平市内、芦別岳、十勝岳を一望できます。坑内から出た岩石を積み上げて作られた「人造の山」ですが、今はそれとわからないほど自然にそびえています。



芦別市へ



芦別市は昭和20年代に「芦別五山」と呼ばれる大手5社の炭鉱が次々と開坑し、人口も7万5000人を超えました。昭和15年には三井鉱山芦別専用鉄道が運行を開始し、その炭山川橋梁にはディーゼル機関車と石炭専用貨車が展示されており、往時の姿を今に伝えています。「星の降る里百年記念館」は道の駅に併設されている郷土資料館。芦別の昭和28年ごろの炭鉱長屋の暮らしを再現したマジックビジョンも好評です。

歌志内市へ



昭和20年～30年代には4万人を超えていた人口も炭鉱の相次ぐ閉山とともに減り続け、今では2600人台となり「日本一小さな市」となりました。「郷土館 ゆめつむぎ」では、明治期から炭都として栄えた歌志内の歴史や文化、炭鉱住宅（長屋）の暮らしを知ることができます。また、ここは昭和の生活用具も豊富です。



# 石炭を運んだ鉄道・港の歴史から 他地域とのつながりを考える

# 小樽市

## 炭 鉄 港

アクセス：札幌市内から札幌自動車道経由で約40分、新千歳空港から道央自動車道・札幌自動車道経由で約70分

### 概要

小樽市総合博物館で北海道の鉄道の歴史と炭鉱との関わりを学び、港湾施設を眺望。手宮線跡を辿って色内銀行街まで歩きます。経済の中心地だった小樽の街並みや施設の見学を行い、北海道経済の中心地と呼ばれたまちの歴史を体感します。

### 学習のテーマとねらい

空知の石炭を運ぶことから北海道の鉄道は始まります。そして石炭を船で積み出すために港が整備され、小樽は道外と道内各地をつなぐ経済の中心地となりました。「炭鉄港」が結節し、人とモノが交差した小樽の歴史と文化を学びます。

### 事前・事後学習

- 北海道の鉄道史と小樽の港の発展を調べてみよう
- 色内銀行街について調べてみよう

### お問合せ先

小樽観光協会  
Tel.0134-33-2510

### 小樽市の「炭鉄港」ストーリー

明治2年に商船の通行が許され、港には北前船が触先を並べるようになりました。空知の石炭の搬出港に選ばれたことで近代都市として小樽は歩み始めます。明治15年開通の官営幌内鉄道は石炭だけでなく内陸部への物資輸送の幹線となり、小樽港は北海道の玄関口となります。戦後、空知の市民生活を支えた行商の人々が仕入れをした「小樽中央市場」は現在も営業を続け、ほかにも小樽には多くの歴史的建造物が残されています。

### 小樽市総合博物館

小樽市総合博物館本館にはアメリカから輸入され、官営幌内鉄道を走った「しづか号」が展示されています。幌内鉄道の開業以来、手宮地区には機関車の整備や石炭の輸送に関わる多くの施設が置かれ、総合博物館の構内や周辺には鉄道基地の様子を伝える様々な遺構があります。中でも明治・大正時代に建設された機関車庫、転車台、貯水槽等の「旧手宮鉄道施設」は国指定重要文化財に指定されています。



### 北炭ローダー基礎と小樽港北防波堤

ローダー基礎は石炭を船に積み込むための機械が据え付けられていた基礎で小樽港唯一の石炭積出の痕跡です。北防波堤は「港湾工学の父」廣井勇が設計した傾斜ブロック工法を採用した日本初の外洋防波堤です。完成から100年以上が経っていますが、今もその機能を果たしています。



### 色内銀行街

明治から昭和にかけて建設された銀行や商社が立ち並び、往時の栄華を今に伝えています。



### 小樽市内の行程

#### 小樽市総合博物館・本館

- 所要時間：約60分
- 料 金：中学生以下無料、20名以上の団体＝高校生200円から2割引
- 休 館：火曜日（祝日の場合は翌平日）

#### 北炭ローダー基礎、小樽港北防波堤（岸壁からの見学）

- 所要時間：約15分

#### 手宮線跡を歩く

- ※旧国鉄手宮線は、北海道で最初の鉄道「官営幌内鉄道」の一部
- ※小樽市総合博物館～旧日本郵船株式会社小樽支店（外観見学）～色内銀行街
- 所要時間：移動時間＝約40分  
色内銀行街散策＝約30分

#### 自由時間

- 所要時間：3時間程度

# 石炭を積みだした港のまちは 石炭を原料とした鉄のまちに

# 室蘭市

## 炭 鉄 港

アクセス：札幌市内から約120分（道央自動車道経由）、新千歳空港から約60分（道央自動車道経由）

### 概要

明治25年に岩見沢～室蘭をむすぶ鉄道が開通し、空知の石炭の積出港として室蘭は発展しました。明治40年に日本製鋼所、42年に輪西製鉄所ができ、鉄のまちとしての歩みも始まります。室蘭で「炭鉄（鉄道・鉄鋼）港」の関連を見聞します。

### 学習のテーマとねらい

石炭を掘りだしても必要とする地へ運ばなければ産業として成立しません。港から石炭を積み出すとともに、石炭を原料の一つとして鉄のまちとして栄えた室蘭。明治期の駅舎や製鉄工場の見学から産業の歴史と広がり学びます。

### 事前・事後学習

- 石炭と鉄鋼のつながりを調べてみよう
- 室蘭が鉄のまちとして発展してきた歴史を調べてみよう

### お問合せ先

室蘭観光協会  
Tel.0143-23-0102

### 室蘭市の「炭鉄港」ストーリー

天然の良港と称される室蘭港は明治5年に開港。翌6年に函館-森～<海路>～室蘭-札幌を結ぶ札幌本道の完成、明治25年の鉄道開設、明治27年には特別輸出港に指定され、石炭積み出し港として栄えます。明治40年に日本製鋼所、明治42年に北海道炭鉄汽船輪西製鉄場（現在の日本製鉄室蘭製鉄所）が設立され、製鉄・製鋼業のまちとして発展していきます。昭和51年に石炭積み出し港としての役割を終えました。最近では工場夜景が人気です。



室蘭のここから知る・学ぶ

### 旧室蘭駅舎

明治45年に建てられた道内の駅舎の中では最古の木造建築物として平成11年に国の有形文化財として登録されています。敷地内には石炭輸送に使われたSLの展示も。

### 日本製鉄(株)北日本製鉄所室蘭地区工場見学

国内最大手の日本製鉄の北日本製鉄所室蘭地区は、「鉄のまち」室蘭を代表するものづくりの現場です。鉄の製造工程を見学できます。

### 室蘭市内の行程

#### 旧室蘭駅舎 ●所要時間：約15分

#### 室蘭市民俗資料館

- 所要時間：約60分
- 料 金：無料
- 休 館：月曜日、祝日の翌日

#### 日本製鉄(株)北日本製鉄所室蘭地区工場見学

- 所要時間：約120分
- 開催日：毎週月～金曜（要問合せ）
- 受入条件：バスで来られる10名以上の団体（上限80名）  
※希望日1カ月前までに事前申し込みが必要

### （もっ！ 室蘭）

#### 室蘭市民俗資料館（とんてん館）

室蘭の歴史・文化・産業を学ぶことができます。日本遺産「炭鉄港」の構成文化財のひとつで、室蘭で初めて製造された鉄を用いて制作された『恵比寿・大黒天像』も展示されています。愛称の「とんてん館」は鉄を打つ音のトン・テン・カンから名づけられました。





# 「炭鉄港」 教育旅行の モデルコース

- コースはすべて札幌発着と仮定しています。前日および翌日の行程から発着地を適宜調整してください。
- 移動時間は一般道を走行した場合のおおよその目安です。都市間等、高速道路を利用する場合は、その旨を記します。
- 5～9月の実施を想定しています（施設開館時間や屋外見学における日没時間等）。
- 詳細は各施設へお問い合わせください。
- 具体的な行程は旅行代理店とご相談ください。

## II 三笠・美唄・月形コース

- 08:30 札幌出発（道央自動車道利用）
- 09:20 三笠着
- 09:25～ 三笠市立博物館・  
11:35 野外博物館エリア
- 11:45～ 三笠鉄道記念館・昼食
- 12:30 三笠発
- 13:00 美唄着
- 13:10～ 安田侃彫刻美術館
- 14:10 アルテピアッツァ美唄
- 14:15～ 炭鉱メモリアル森林公園
- 14:45 美唄発
- 15:15 月形着
- 15:20～ 月形樺戸博物館
- 16:20 月形発
- 17:30 札幌着

## I 岩見沢・栗山・夕張コース

- 08:30 札幌出発（道央自動車道利用）
- 09:05 岩見沢着
- 09:10～ 炭鉄港全体のストーリーを学ぶ  
11:10 （講演）+岩見沢駅周辺フィールドワーク
- 11:20～ 昼食
- 12:00 岩見沢発
- 12:30 栗山着
- 12:35～ 小林酒造見学
- 13:30 栗山発
- 14:10 夕張着
- 14:15～ 夕張市石炭博物館・石炭の大露頭
- 15:40 夕張発
- 15:45 夕張着
- 17:30 札幌着

## III 赤平・芦別・歌志内コース

- 08:30 札幌出発（道央自動車道利用）
- 09:55 赤平着
- 10:00～ 旧住友赤平炭鉱立坑櫓と  
12:00 赤平市炭鉱遺産ガイド施設
- 12:10～ 昼食
- 12:55 赤平発
- 13:00 芦別着
- 13:20 星の降る里百年記念館
- 13:25～ 14:25 芦別発
- 14:30 歌志内着
- 14:55 郷土館ゆめつむぎ
- 15:00～ 16:00 歌志内発（道央自動車道利用）
- 16:05 札幌着

## IV 小樽コース

- 08:30 札幌発（札幌自動車道利用）
- 09:10 小樽着
- 09:10～ 小樽運河、小樽駅等（車窓から見学）
- 09:25 小樽市総合博物館
- 09:30～ 10:30 北炭ローダー基礎、小樽港  
10:50 北防波堤（岸壁からの見学）
- 11:00～ 手宮線跡および色内銀行街散策
- 12:10 昼食
- 13:00 自由時間
- 13:10～ 16:40 小樽発（札幌自動車道利用）
- 16:50 札幌着

## V 室蘭コース

- 08:30 札幌発（道央自動車道利用）
- 10:30 室蘭着
- 10:35～ 旧室蘭駅舎
- 10:50 室蘭市民俗資料館（とんてん館）
- 11:10～ 12:10 昼食
- 13:00 日本製鉄（株）北日本製鉄所  
15:20 室蘭地区工場
- 15:30 室蘭発（道央自動車道利用）
- 17:30 札幌着

# 「炭鉄港」教育旅行の食と宿

※ここにあげた情報は一例です。旅行代理店とご相談ください。



炭鉄港めし



### 岩見沢

- ホテルサンプラザ（会場・弁当等、要相談）

### 夕張

- じじば食堂（弁当対応 要相談）
- ホステルひまわり（食堂 最大250名程度）

### 三笠

- 三笠振興開発株式会社（ジオ弁当、ジオ駅弁 要相談 10～100個程度）
- ホテルTAIKO（弁当 アレルギー対応可 最大150個程度）

### 美唄

- 寿楽（会場・弁当等、要相談）

### 赤平

- 焼肉のたきもと（弁当最大100個程度、要相談）

### 歌志内

- 歌志内温泉 チロルの湯（弁当 最大100個程度）

### 小樽

- ニュー三幸（最大120名 弁当・カレー等）
- にしん御殿 小樽貴賓館（大広間最大120名 にしんお重、にしんそば等 旧青山別邸見学のコースもあり）

### 室蘭

- 室蘭プリンスホテル（会場最大200名、弁当最大120個程度）
- 蓬莱殿（会場・弁当対応 要相談）



### 岩見沢

- ホテルサンプラザ（要相談）

### 夕張

- ホステルひまわり（宿泊最大310名）

### 小樽

- 市内には宿泊施設が多数、旅行代理店と相談

### 室蘭

- 室蘭プリンスホテル（最大90名、第二プリンスホテル 最大88名）



